

令和5年度 園の自己評価

幼保連携型認定こども園 恵愛こども園

教育・保育理念		未来ある子どもの生きる力を育てる	
教育・保育方針		生活や遊びを通して自主的に行動し人間的豊かさを身に付ける	
教育・保育目標		・健康で心豊かな子ども（心と体） ・自分で考え最後まで頑張ることのできる子ども（チャレンジ） ・自分を大切にし友だちも大切にする子ども（自尊心） ・規律や約束を守り挨拶のできる子ども（規範意識・道徳） ・言葉を通して自分を表現できる子ども（思考力・判断力・表現力） ・自然に親しみ興味関心を持つ子ども（自然との関わり）	
項目	内容	評価	今年度の状況
保育目標	保育目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた目標を設定しているか。	A	子ども主体の保育、子どもの視点を常に意識するよう、全職員で保育目標とビジョンを念頭に入れ、保育を進めた。
	目標は、職員や保護者の願いを反映しているか。	A	
	目標は、前年度の反省を生かしているか。	A	
	目標は、全職員で検討し、共通理解を図っているか。	A	
保育計画	保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されたねらい、内容を取り入れているか。	A	以上児は、子どもたちの生活の連続性と姿を考慮した計画を作成し、みんなで取り組む課題や活動、小学校への移行を意識した活動を取り入れた。未満児は、個別計画を作成し、丁寧に関わる保育を心がけた。
	発達過程に応じた保育がされているか。	A	
	環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	B	
	素材・用具を適切に活用しているか。	A	
健康及び安全	健康状態等の把握と疾病等の対応はできているか。	A	感染症発症時には、クラス担任と連携を取りながら早期対応を心がけた。また、保護者には、感染症ボードで情報を提供し、園でのまん延防止に努めた。アレルギー対応は保護者と連携を取りながら個別対応を行っている。避難訓練は毎月実施し、アイギスによる危機管理研修も取り入れ、事故防止に努めている
	アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行っているか。	A	
	設備・用具などの衛生管理や安全点検は行われているか。	A	
	避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて適切に実施しているか。	A	
食育	食育計画を作成し、よりよい食習慣や心身の健康の基礎を培うよう努めているか。	A	子どもたちが夏野菜などを苗植え、水やり、収穫し、収穫した野菜を調理してもらうと、子どもたちの喜ぶ笑顔がたくさんみられた。給食会議を毎月行うことによって、給食室との連携がスムーズに行えた。
	給食会議を行い、乳幼児にふさわしい食事が提供されるように、献立の見直しや改善を図っているか。	A	
の施設責任者	施設長は、法令順守・職員指導・研修への促しを行っているか。	A	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で研修等の参加が少なかった。職場環境においては規定の見直し等でより働きやすい環境に整えた。
	働きやすい職場環境を整えているか。	A	

職員の資質向上	園内研修を計画し、日常の保育に生かされているか。	B	園にふりかかる事故・トラブルの対応や、事故を起こさないための危機管理研修を園内で年1回行っている。また、キャリアアップ研修を積極的に受講している。毎月、月末に自己評価表に記入してもらい、一か月を振り返る機会を設けている。
	研修課題は、保育目標の具体化につながるものであるか	B	
	各種研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか	A	
	定期的に自己評価を行い、資質向上へつなげているか。	A	
子育て支援	個人の目標を設定し、振り返り、達成度を管理しているか。	A	子育てサークルを2ヶ月に1回開催するようにしているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響でほとんど実施されていない。相談等は保護者と個別に面談するなどして、必要に応じて専門機関へとつないでいった。
	地域の親子が一緒にあそぶことができるような場を設定しているか。	C	
	保護者の子育てに関する悩み、相談ができる環境を整えているか。	A	
情報発信	医療機関、保健センター等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	A	ホームページにも園の行事の様子を公開しているが、主に連絡帳アプリを活用しながら、情報発信している。地域や近隣の学校との連絡協議会への参加は、積極的に行い情報交換の場となっている。
	えんだより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	A	
	地域の連絡会等との連携はできているか。	B	
	行事や子育て支援事業等の情報を発信しているか。	B	

評価 A 良好 B おおむね良好 C やや改善 D 改善

今年度新型コロナウイルス感染症が5月より2類から5類に移行。最初は感染予防しながら、慎重に保育等を進めて行くも、徐々に人々からコロナ感染症が薄れて行った。ただコロナ禍では感染が少なかったインフルエンザ、溶連菌等の感染症が増加し、児童、職員の感染者がみられた。通年通り小学校への接続がスムーズに移行できるよう、幼保小連携の継続的な取り組みは実践してきた。行事・職員研修においても徐々にコロナ禍前の状況に戻って来た1年であった。